

目 次

I	フレンドシップ相手国の選定について・・・・・・・・・・・・・・・・	2
II	カンボジア王国の概要について・・・・・・・・・・・・・・・・	4
III	交流拠点づくりの検討経過について・・・・・・・・・・・・・・・・	6
IV	フレンドシップ事業の経過について・・・・・・・・・・・・・・・・	13

I フレンドシップ相手国の選定について

2003年5月14日、愛知県国際博推進局より「一市町村一国フレンドシップ事業」に関する取り組み要請と参加希望国の提示があり、幸田町と幸田町国際交流協会（以下KIA）が協議し、選定した。選定経過は次のとおりである。

(1) 第1次選考

ア 選定国 13か国

ベトナム、カンボジア、ブータン、ラオス、コートジボアール、ケニア、エジプト、セネガル、トルコ、ポルトガル、ルーマニア、アルゼンチン、ヴェネズエラ

イ 選定基準

- | | |
|-----------------|--------------|
| A 知名度、申請の競合性 | B 国力、民生の安定性 |
| C 友好国としての将来性 | D 歴史、風土、気候 |
| E 話題性 | F 相手国の出展内容 |
| G コミュニケーションの難易度 | H 食文化、生活習慣 |
| I 児童生徒の関心度 | J 今までの町との関わり |

(2) 第2次選考（優先順位）

ア 選定国 6か国

- ① カンボジア ② エジプト ③ トルコ ④ アルゼンチン
⑤ セネガル ⑥ ルーマニア

イ 選定基準

- A 一過性でなく、友好関係が持続できる
B 児童生徒が関心を持てる
C 話題性（希少価値）がある

(3) カンボジアを優先1位とした理由

ア フレンドシップ事業は、万博期間内の一過性の付き合いではなく、閉幕後も末永く継続することに意義がある。幸田町では初めての海外友好国でもあるので、同じアジア圏内の国が親しみやすく望ましい。

イ カンボジアは、9～13世紀はインドシナ半島最大最強の王国であった。同じアジア人としてここから学ぶ史実は価値あるものが多大である。

ウ アンコール・ワット遺跡は、東南アジア最大級の「石造文化・世界遺産」であり、それは現在もカンボジア国民の血に「文化アイデンティティ」として脈々と受け継がれている。

エ 1953年のフランスからの独立以来50年にして、自ら求めた平和と民生の安定をつかみかけている。

オ この時期に、カンボジアと交友関係を続ける中で「新しい世界観と民族愛」を学ぶことは、幸田町民にとっても有益にして貴重な体験となる。

カ 幸田町とカンボジアにはすでに次のような関わりがある。

(ア) KIAは、数年に渡りカンボジア青年を招聘して学校訪問を行い、交流活動を重ねている。

(イ) 更新により不要となった消防車を、民間団体を介して寄贈している。

- (ウ) 小中学校の協力により、楽器や文具をカンボジアの学校へ寄贈している。
- (エ) 町内にある幸田サーキットの経営者が幸田町隣接地（吉良町内）にアンコールミュージアムを開館しており、見学を通してカンボジアへの理解者が多い。

以上の点から、愛知県へ希望を伝えた結果、2003年9月17日に、幸田町のフレンドシップ相手国としてカンボジア王国が決定した。

II カンボジア王国の概要について

国名	カンボジア王国	
国の概要	面積	181,035km ² ※日本の約0.5倍
	人口	1,340万人(2008年)
	首都 (主要都市)	プノンペン(人口132.5万人) (バタンバン、シェムリアップ、シハヌークビル、コンポト)
	住民	クメール人が大半。チャムなど36の少数民族、ベトナム系、中国系など
	言語	カンボジア語(クメール語)
	宗教	仏教が国教
	政治体制	立憲君主制
	憲法	1993年9月24日交付。99年3月改正
	元首	国王(ノロドム・シハモニ) 2004年10月29日即位
	議会	2院制。上院61議席(任期6年)。下院123議席(任期5年)。ともに直接選挙制度
	内閣	議会の承認を得て、国王が任命。 首相(フン・セン) 2004年7月発足
	政府	人民党(第一党)及びフンシンペック党(第二党)による連立政権
	国内総生産	108億米ドル(国民一人当たり774.7ドル) <2008年>
	通貨	リエル(1米ドル=約4,180リエル) <2009年平均>
	資源	米、木材、ゴム
教育	初等6年(義務) - 中等3年(義務) - 高等3年 - 大学4年	
地方の概要	地方行政の構造	中央政府(内務省) - ②州(20) - ③郡(171) - ④コミューン(1,510) - ②市(プノンペン、シハヌークビル、カエップ、パイリン) - ③区(14) - ④サンカット(111) ※1コミューン/サンカットは平均で約7,800人の住民を管轄する。
	長の選任	州/市、郡/区レベルでは中央政府による任命 コミューン/サンカットにおいては評議会の最大多数政党から長を選出。 ※コミューン/サンカット内の安定を図るため、第二政党から財政・経済問題担当の第一代理議長を、第三政党から総務担当の第二代理議長を選出している。
	議会	2002年2月に初の地方選挙が行われ、全国で11,261人のコミューン/サンカット議会議員が誕生。住民による直接選挙(比例代表制、任期5年)。1コミューン/サンカットは5名~11名の議員から成る。

二 国 間 関 係	政治関係	我が国は1992年3月に駐カンボジア特命全権大使を任命し、在カンボジア大使館を17年ぶりに再開。一方、カンボジア側は1994年12月、1975年以来閉鎖していた在京カンボジア大使館を再開。
	経済関係	(1) 対日貿易（2009年、貿易統計） (ア) 貿易額 日本への輸出 約133億円、日本からの輸出 約105億円 (イ) 主要品目 日本への輸出 靴等、衣類及び付属品 日本からの輸出 小型船舶、車両・部品、機械（縫製用機会等） (2) 日本からの直接投資 亜鉛鉄板工場、オートバイ組み立て、自動車販売等 (3) 2007年6月、「投資の自由化、促進及び保護に関する日本国とカンボジア王国との間の協定（日カンボジア投資協定）」に署名し、2008年7月末に発効した。
	文化関係	1993年10月、「アンコール遺跡救済国際会議」（東京）を開催。以降、右会議で設置されたアンコール遺跡保存修復国際調整委員会において例年仏と共に共同議長を務めている。また、1994年より日本国政府アンコール遺跡救済チーム（JSA）を通じ、アンコール遺跡の保存修復活動を実施中。
	在留邦人数	889人 <2009年10月>
	在日カンボジア人数	2,651人 <2009年12月、入管統計>
	条約・取極	日本・カンボジア友好条約（1955年12月署名、1956年発効） 日本・カンボジア経済技術協力協定（1959年3月署名、同年発効） 投資の自由化、保護及び促進に関する日本国とカンボジア王国との間の協定（2007年6月署名、2008年7月末発効）

Ⅲ 交流拠点づくりの検討経過について

(1) 交流拠点の必要性

現在、幸田町とカンボジア王国とのフレンドシップは、「町」対「国」というアンバランスな関係であり、今後、草の根的な交流を継続していくには不向きであるといえる。カンボジア国内に核となる交流拠点があれば、様々な事業を展開していきやすいという利点があると考えた。

(2) 姉妹（友好）都市提携

日本の地方自治体が国際交流を進める場合、「姉妹（友好）都市」の提携が考えられる。幸田町には現在、姉妹（友好）都市提携をしている外国都市はない。

カンボジア国内の都市との姉妹（友好）都市提携の可能性について検討した結果は次のとおりである。

① 姉妹（友好）都市提携とは

「姉妹（友好）都市」の考え方について、財団法人自治体国際化協会は次のように述べている。

姉妹（友好）自治体の提携の定義・意義

姉妹（友好）自治体の定義については、法律上定められているものではありません。本来、交流というものは、人と人が触れ合うことであり、自由な発想のもとに行われるものであることから、定義づけることにはなじまないという理由からと考えられます。

広辞苑（岩波書店）によると、姉妹都市とは「文化交流や親善を目的として結びついた国際的な都市と都市。（以下、省略）」と説明されています。

当協会では、姉妹都市に関する統計処理を行ううえで、一定の判断基準を設けないと不都合が生じることから、次に掲げる要件のすべてに該当するときは、「姉妹（友好）自治体」として取り扱うこととしています。

- (1) 両首長による提携書があること
- (2) 交流分野が特定のものに限られていないこと
- (3) 交流するに当たって、何らかの予算措置が必要になるものと考えられることから、議会の承認を得ていること

また、「姉妹都市」「友好都市」「友好交流都市」などの名称により、自治体同士で行われている都市間交流について上記3点の基準を満たしていれば、当協会では「姉妹（友好）自治体」として取り扱うこととしています。

姉妹自治体交流は自治体が行う国際交流を推進する典型的な手法の一つです。住民が参加できる機会も多いことから、国際交流施策の中核として重要なものとなっています。

姉妹自治体交流には、相互理解や国際親善の推進、地域の振興・活性化、さらには国際社会の平和と繁栄への貢献といったことが期待されています。

姉妹自治体交流を通じて、相手地域のニーズを的確に把握し、きめ細かな交流を行うことにより、儀礼的な友好親善を目的とするものにとどまらず、人的交流、文化交流、さらには、技術・経済交流といった共通の目的を持ち、相互協力まで発展しているものもあります。

日本では「姉妹都市」という呼び方が一般的に使用されていますが、これは元々アメリカで「Sister city」と呼ばれたことから、それを直訳した「姉妹都市」という呼び方が今日まで多く採用されてきたものと思われます。なお、イギリスでは「Twin City（双子都市）」、ドイツでは「Partnerstadt（パートナー都市）」と呼ばれています。また、中国との提携の場合には、「姉妹」を用いると、どちらが姉か妹かという上下関係の問題が生じることから、「友好都市」という呼称が用いられています。

また、最近行われている提携では、「姉妹自治体（姉妹都市）」としてではなく、「友好的な交流（友好交流）」という名称が見受けられるようになりました。「姉妹都市の前段階としての友好都市締結」や「姉妹都市交流ではないが、交流は続けたい」ということで「友好都市」提携を結んでいる自治体も多く見られます。

② 姉妹自治体提携の概況

2011年3月31日現在の日本の姉妹都市提携自治体数及び提携数は次のとおりである。なお、カンボジア国内の都市と提携している日本の自治体は現在もない。

区分	姉妹提携件数	姉妹提携自治体数	(複数姉妹提携自治体数)
都道府県	132	40	(32)
市	1,146	541	(305)
区	38	21	(37)
町	245	205	(34)
村	35	36	(3)
合計	1,596	837	(388)

※1 姉妹提携自治体数には、複数姉妹提携自治体数を含む。

【資料：財団法人自治体国際化協会】

③ 提携効果とリスク

姉妹（友好）都市提携による効果とリスクは次のとおりである。

ア 効果

- (ア) 交流拠点を設けることで、様々なフレンドシップ事業を継続的に展開できる。
- (イ) 町民の国際理解や国際親善の推進、国際社会の平和と繁栄への貢献が期待できる。
- (ウ) 文化交流や経済交流により、地域の振興・活性化が期待できる。

イ リスクマネジメント

- (ア) 交流事業にはコストがかからないか。
→原則、金銭支援は行わない。意欲のある民間主体による文化交流を行うことで公金の支出は最低限に抑えられる。
- (イ) 政情や治安、衛生面で不安がないか。

→フレンドシップ事業を推進する上で、町民の安全は最優先である。常に現地の状況を把握するとともに、有事のときは、最新の情報を収集し提供する。

④ 提携の手順

一般的な姉妹都市提携の手順は次のとおりである。

- ア 候補都市のリストアップ候補の絞り込み（情報収集など）
- イ 候補自治体へ提携の意向打診
- ウ 現地調査
- エ 提携意思の確認
- オ 提携に伴う交流活動の基本方針についての相手方との協議
- カ 提携書の協議・確定
- キ 提携書の署名・調印式
- ク 姉妹提携に基づく交流活動の開始

提携締結に至るまでには、提携先と締結後どのような交流をしていくのか十分に話し合い、お互いの共通理解の上にならざるを得ない締結をすることが重要である。また、交流を継続するためにも儀礼的な使節の交換に留まることなく、企画段階から住民の参加を募ったり、金銭の負担のかからない交流の推進、目的を明確化し多様な交流をすすめていくことなども必要である。

（⇒当時想定していなかったが、提携を結ぶためには、内務省の承諾が必要である。）

⑤ 交流分野

姉妹都市提携における一般的な交流分野は次のとおりである。

- ア 教育交流
- イ 文化交流
- ウ スポーツ交流
- エ 医療交流
- オ 経済交流（農業）
- カ 経済交流（工業）
- キ 経済交流（商業・観光）
- ク 行政交流
- ケ その他交流

⑥ 提携方針

今後、カンボジアとのフレンドシップ事業を継続展開していくためには、カンボジア国内の自治体と提携していくことが望ましいと思われる。しかし、姉妹都市提携には、「両首長により提携書に調印していること」「交流分野が特定のものに限定されていないこと」「予算措置のため議会の承認を得ていること」といった基準をすべて満たす必要がある。

姉妹都市提携未経験の幸田町は、(5)のような多種に及ぶ交流に対応するのは困難である。そこで、まずは文化交流を中心とした「友好都市」提携を結んでいくことが最良であると考えた。

(3) 友好都市の選定

幸田ライオンズクラブが2009年2月、カンボジアでの小学校建設支援（トラキエット小学校の改築）を行った。この小学校を交流拠点として活用していくことが、最も有効な手段と思われ、交流拠点として選定した。選定時の詳細は下記のとおりである。

当時、幸田町と友好都市提携を結ぶのに理想的なトラキエット小学校がある自治体について、カンボジアの地方行政を含めた調査結果は次のとおりである。

① カンボジアの地方行政

中央集権国家であるカンボジア王国は、①州－郡－コミューン－村と②市－区－サンカット－村に分割される。

地方行政は、国の出先機関である「州・市」「郡・区」と2002年に新しく誕生した地方自治体である「コミューン・サンカット」により運営されている。なお、「村」は日本で言えば町内会のようなものであり、行政組織ではない。

② 州・市における地方行政

現在、カンボジアは20州、4特別市が存在している。州と市に憲法上の明確な区分はなく、権限も同一である。州・市は国の出先機関であり、中央省庁の各出先事務所が置かれ、内務省職員である知事・市長が統括している。よって勤務する公務員は全員が各省庁の国家公務員である。

③ 郡・区における地方行政

州・市の下に位置する地方行政の単位として、全国に171の郡、14の区が置かれている。郡・区も国の出先機関であり、内務省職員である郡・区長が行政の統括・調整を行っている。ただし、郡・区は州・市の業務執行窓口であり、独自の予算はない。

④ コミューン・サンカットにおける地方行政

コミューンは郡の、サンカットは区の下に置かれる地方行政の単位であり、現在、1,510のコミューンと111のサンカットがある。

カンボジア復興後、「地方分権」の流れを受け、2002年にカンボジアで初めての地方選挙が住民の直接選挙により行われた。これにより、住民によって選ばれた評議員による地方自治がスタートした。しかし、規定されている行政範囲が曖昧かつ広範囲である一方で、評議会自体の人材・行政能力や財政上の問題から完全な行政サービスの実施にはほど遠い状況にある。

⑤ トラキエット小学校の所在地

ア 州名 シェムリアップ州 (Siem Peap)

イ 郡名 ムウペーン郡 (Mukh Paen)

ウ コミューン名 不明

エ 村名 トラキエット村 (Trakiet)

オ 距離等 シェムリアップ州都から33km。車で約90分。

⑥ 友好都市の候補

カンボジアは中央集権国家であり、地方自治が進んでいないことから、自治体のレベルとしては「州」が適当と思われる。以上のことから、幸田町の友好都市候補として、シェムリアップ州が望ましいこととなった。

⑦ シェムリアップ州の概要（２００８年）

ア 面積（陸地） １０, ２９９km²

イ 人口 ８９６, ３０９人

ウ 郡 １２

エ コミューン １００

オ 村 ８７５

カ 地理

シェムリアップは、東南アジア最大の湖であり、地球上でも有数の多様な魚類が生息する内水域でもあるトンレサップ湖の約１０km北東にあり、シェムリアップ川の兩岸に広がる。アンコール・ワットの６km南である。シェムリアップ市街には６０, ０００人の住民がいるが、カンボジアの他の多くの町と同じく、シェムリアップも、いくつもの Wat（寺院と僧坊）の周りに発展した村がひとまとまりになって発展してきた町である。町の中心には古い市場があり、その周りをフランス植民地風の民家を取り囲んでいる。

キ 歴史

シェムリアップ一帯は、何世紀もの間、シャムの領土かその王権の属国であった。帝国主義時代にフランスは東南アジアの広大な領域を植民地化した。カンボジアのほかにもラオスもベトナムもこの「フランス領インドシナ」に属した。１９０７年３月２５日の条約で、シェムリアップ、バタンバン及びシソポン（合計で２０, ０００km²以上）も植民地政府に属した。

１９７５年から始まったクメール・ルージュ支配の時代には、全国の他の都市から誘拐されてシェムリアップの住民にさせられた人々が、畑での重労働に従事させられた。これらの人々は、１９７９年１月にベトナム軍が侵攻してクメール・ルージュに勝利した後、故郷の都市に帰されたが、クメール・ルージュは１９９０年代の初めまで森に逃げ込んで攻撃を続けた。住民は、長年の間、バリケードを築いて中心街を守らなければならなかった。シェムリアップや UNTAC (United nation Transitional Authority in Cambodia) 平和維持部隊に対する最後の攻撃は１９９３年に起こった。

２００５年６月に、市内のインターナショナル・スクールで、人質立てこもり事件が起こり、カナダ人児童一人が殺害された。

ク 経済と観光

１９９０年代に一連のプロセスが進行し、カンボジア国内の政治情勢も安定して、シェムリアップも平和で国内でも比較的に繁栄するようになった。とはいえ、カンボジアは最貧国の一つであり、平均月収は約３０米ドルにすぎない。シェムリアップの繁栄は観光業に負うところが大きい。

トンレサップ湖周辺では、住民は水田での米作と漁業を生活の基盤とし、最も重要な収入源にしてきた。クメール・ルージュはアンコール遺跡群周辺を最後の拠点として抵抗を続けたが、相次ぐ投降を受けてポル・ポトがソン・センを処刑し、ついでポル・ポトが死亡すると、本格的な地雷撤去作業が始められ、シェムリアップは観光都市としての復活を始めた。

政府が外国人観光客の入国を認めるようになると、多くの観光客がシェムリアップをアンコールの寺院群への参拝の出発点として利用したため、コンスタントな収入源が加わった。こうして、20世紀の初めごろに建てられたホテルが、1990年代の終わりごろに次々に再び営業を始めた。さまざまな種類のレストランに加えて、五つ星高級ホテルから5米ドルの安宿まで、あらゆる価格帯のホテルやゲストハウスが営業している。

2000年代の初めには、シェムリアップは観光の拠点都市として発展している。現在、プノンペンと同様に建設ラッシュの状態にあり、国立の巨大な博物館やコンサートホール（地元の小児は無料）、観光客向けの病院などが建設されている。肥大化した観光産業がシェムリアップ（それにアンコール）をどのように変化させるのかは、まだ予断を許さない。

ケ 市外観光

トンレサップ川沿いにあるオールド・マーケットには観光客向けの店が多数立ち並び、特産の絹織物や工芸品が玉石混交で売られている。中には地元産でないものもある。地元産にこだわり、かつ質の高いものを求めるのであれば、オールド・マーケットを囲むように立ち並ぶセントウル・ダンコールやアルチザン・ダンコールなどといったヨーロッパ資本の店がある。しかし、価格はかなり高い。東側にはプサー・ルー（そのまま「市場」の意）があり、観光客もそれなりに訪れるが、むしろ地元民の生活用品が中心であり観光客向けの商品は少ない。

夜間の治安は良いとはいいがたく、徒歩での移動はごく短距離を除いて避けたほうが良い。信用できるバイクタクシーやトゥクトゥクを利用したほうが安全である。

コ 文化

カンボジアの美術や工芸（木製や石製の彫刻、織物など）や芸能（伝統舞踊やスバエク（影絵芝居）など）は、芸術家がクメール・ルージュの殺人の犠牲者になってしまったため、ほとんど完全に破壊されてしまった。シェムリアップでは、平和な市民社会の再建に伴い、各種の研究団体や芸術家グループが結成され、こうした技芸を復興させている。

カンボジアの伝統舞踊は、Angkor Village theatre やいくつかのホテル（例えば Grand Hotel D'Angkor や Koulen Restaurant）で公演が行われている。おそらく自らの歴史や文化への誇りとともに観光客にアピールする必要もあって、この舞踊はいつのころからかアプサラ・ダンスと呼ばれるようになった。ダンサーは、アンコール寺院群の壁に彫り込まれたアプサラスを思い起こさせる伝統衣装を身につけている。ただし、現代のダンサーは、歴史上の、つまり天界のモデルとは異なり、衣服を身につけている。

カンボジアでは、特に西部でインドネシアの有名なワヤン・クリと同様の影絵芝居が行われている。シェムリアップでは、例えば Krousar Thmey Foundation の子どもたちが毎週1回、Hotel La Noria のレストランで上演している。現代的な話題を紹介したり盛り上げたりする目的で、登場人物やストーリーが追加されることもある。例えば、団結とか、敬老の心とか、児童擁護とか、エイズ撲滅といった具合である（買春

も参照)。伝統楽器によるカンボジア音楽も聴くことができる。影絵人形は、地元の House of Peace Association がその他の物とともに製造している。

シェムリアップ最古の寺院の一つは Wat Bo であるが、その壁にはブツダの生涯を表現する壁画が描かれていて、これは一見の価値がある。Wat Thmei にはクメール・ルージュの犠牲者の遺骨を納め、記憶にとどめるために建てられたストゥーパがある。

クメール・ルージュ体制と内戦の恐怖を記憶するもう一つの場所が、シェムリアップからアンコールへ向かう途中の売春街にある地雷博物館である。同館の展示と管理を担当しているのがアキ・ラーであり、彼はかつてクメール・ルージュと戦うべくベトナム軍に13年間にわたって所属し、戦時中は地雷除去を担当していた。彩色された写真を見れば、戦争は終わっても、大量の地雷によるトラウマはまだ残っていることが分かる。彼は、来館者からの募金を彼のなすべき仕事、つまり、周辺の農夫が見つけた地雷の除去の費用や、地雷によって手足と家族を同時に失った少年たちの養育にあてている。

トンレサップの湖岸に沿って、支柱で支えられた建物だけでなく、屋形船でも生活する村がいくつもあって、よく「泳ぐ村」と呼ばれている。例年水位が上昇する時期には、村中総出で引っ越しをして、漁業で生計を立てるのである。また、トンレサップやその周辺の湖水に浸る地域は魚が豊富で様々な種類の鳥が集まってくることから、Prek Toal 鳥保護区が設定されている。

市街中心部には日本のNGOが設立した小児病院があり、北東部にも、ジャヤヴァルマン7世小児科病院がある。同院は、スイスの医師ビート・リヒナー(Beat Richner)がスイスとフランスを中心に集めた寄付で設立したものであり、子供たちに無料で医療を提供している。彼はビートチェロという名前で毎週土曜日定期的にチェロのコンサートを開き、演奏を披露するとともに、児童の衛生について講演をしている。

サ 交通

空路 - 市街地北西にシェムリアップ国際空港があり、アジアの各地に安い航空便が出ている。2005年には国際線ターミナルも近代的なものに改築新装され、アメニティが充実している。

陸路 - プノンペン、ポイペト(Poipet, タイ国境)などへバスがある。途中治安の悪い地域もあり、初心者にはお勧めできない。

水路 - プノンペンへスピードボートがある。

IV フレンドシップ事業の経過について

カンボジアとのフレンドシップ事業等での主な経過は次のとおりである。

期 日	内 容
2003. 09. 17	カンボジア王国が幸田町のフレンドシップ相手国に決定
2003. 12. 13	プラシド商業大臣が幸田町を表敬訪問
2003. 12. 24	町長が在日本カンボジア大使館を表敬訪問
2004. 06～ 2004. 07	カンボジアダンス講習会を開催
2004. 07. 12	スクールビジットでカンボジア留学生在子どもたちと交流
2004. 07. 19	今川幸雄元駐カンボジア大使による講演会を開催
2004. 07. 31	こうた彦左まつりでカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2004. 09. 11	幸田高校でカンボジア料理教室を開催
2004. 10. 10	町合併 50 周年記念式典に駐日カンボジア王国大使を招待
2004. 10. 30	南部中学校文化祭でカンボジア留學生と交流
2004. 11. 06	幸田町文化祭でカンボジア展を開催
2004. 11. 06 ～11. 13	町立図書館の世界の凧展でカンボジア凧を展示
2004. 11. 22 ～11. 28	町長らがカンボジア王国を表敬訪問
2005. 01. 09	こうた凧揚げまつりにカンボジア留學生が参加
2005. 03. 25	愛知万博開幕
2005. 05. 02 ～05. 21	カンボジア人監督が町内でフレンドシップ記録映画を撮影
2005. 05. 10	カンボジアナショナルデーに幸田町から 300 人が参加
2005. 05. 11	プラシド商業大臣が幸田町を表敬訪問
2005. 07. 30	こうた彦左まつりでカンボジア留學生がカンボジアダンスを披露
2005. 08. 20	こうた夏まつりで万博カンボジア館スタッフがパビリオングッズを販売
2005. 09. 10	石澤良昭上智大学学長による講演会を開催
2005. 09. 22	万博「幸田町の日」でカンボジア留學生のダンス披露と記録映画を上映
2005. 09. 25	愛知万博閉幕
2005. 10. 19	スクールビジットでカンボジア留學生が幸田小学校児童と交流

期 日	内 容
2005. 10. 29	スクールビジットでカンボジア留学生在幸田中学校生徒と交流
2005. 11. 04	プー大使を招きカンボジア館展示品アンコールワット模型の除幕式を開催
2005. 11. 16 ～11. 21	KIA がカンボジアフレンドシップツアーを開催
2006. 02. 22	スクールビジットでカンボジア留学生在幸田小学校児童と交流
2006. 07 ～2007. 03	北部中学校生徒が国際協力アクションプランに参加
2006. 07. 29	こうた彦左まつりでカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2006. 08. 19	こうた夏まつりでカンボジアグッズを販売
2006. 09. 30	丸井雅子上智大学助教授による講演会を開催
2006. 10. 28	北部中学校生徒がワールドコロボフェスタに参加
2006. 11. 15	カンボジア投資セミナーで町長がプラシド商業大臣を表敬訪問
2006. 11. 15 ～11. 20	KIA がカンボジアフレンドシップツアーを開催
2006. 11. 29	アートフィルムフェスティバルで万博カンボジア記録映画を上映
2007. 02. 17 ～02. 24	KIA 会員 4 家庭にカンボジア人がホームステイ
2007. 07. 28	こうた彦左まつりでカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2007. 08. 18	こうた夏まつり「地球ひろば」でカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2007. 08. 18 ～08. 19	こうた夏まつり「地球ひろば」等にキムター公使とボロム参事官を招待
2008. 01. 20	町民国際交流パーティーでカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2007. 10 ～2008. 10	幸田ライオンズクラブと KIA が学校や町民にカンボジア学校建設支援を呼びかけ
2008. 7. 26	こうた彦左まつりでカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2008. 8. 16	こうた夏まつりでカンボジア留学生在カンボジアダンスを披露
2008. 8. 31 ～9. 13	カンボジア青年招聘事業 カンボジア青年 5 名を招聘し研修及び交流やホームステイ
2008. 11 ～2009. 3	幸田ライオンズクラブによりシェムリアップ州トラキエット小学校建設
2008. 11. 13 ～11. 16	シェムリアップ州へ副町長、議長、担当で公式訪問 ※ 内務省の承諾ないため調印できず
2009. 2. 18	トラキエット小学校開校式 幸田ライオンズクラブ参加
2009. 2. 19	シェムリアップ州からフレンドシップ合意書の内容を修正した草案が届く

期 日	内 容
2009. 3. 16	トラキエット小学校へ教材備品の支援
2009. 7. 8	シェムリアップ州から届いた草案を修正し、同州へ送付
”	在日本カンボジア王国大使館を訪問し、フレンドシップ合意の協力依頼
2009. 7. 25	ホー特命全権大使を彦左まつりに招待、カンボジア留学生との交流
2009. 12. 11	シェムリアップ州から「内務省からの承認書」の送付
2010. 1. 25	在日本カンボジア大使館へ、町長表敬訪問
2010. 7. 31	彦左まつりに在名カンボジア留学生参加、カンボジア舞踊披露、行列参加
2010. 8. 21	こうた夏まつりに在名カンボジア留学生参加、カンボジア舞踊披露、盆踊り参加
2010. 8. 28 ～9. 11	カンボジア青年招聘 4 名（地域国際化協会等先導的施策支援事業）
2010. 11. 17 ～11. 20	シェムリアップ州町長、副議長、担当課長公式訪問
2010. 11. 18	シェムリアップ州とフレンドシップ合意書に調印

参考文献及びウェブサイト等

【参考文献】

「カンボジアの地方自治」 財団法人自治体国際化協会（シンガポール事務所）

「日本の姉妹自治体一覧」 財団法人自治体国際化協会

「カンボジア投資ガイドブック」 カンボジア開発評議会

【ウェブサイト】

外務省 各国地域情勢（カンボジア）

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/cambodia/data.html>

財団法人自治体国際化協会（姉妹提携）

<http://www.clair.or.jp/j/simai/index.html>

カンボジア日本人材開発センター

<http://www.cjcc.edu.kh/index.html>

フリー百科事典『ウィキペディア』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

【聞き取り調査】

独立行政法人国際協力機構 中部国際センター 所長 米田博氏、今井成寿氏、西尾治美氏

独立行政法人国際協力機構 カンボジア事務所 森畑真吾氏

カンボジア日本人材センター 石田和基氏

名古屋大学法政国際協力研究センター 准教授 コンテイリ氏

豊橋技術科学大学 工学教育国際協力センター 准教授 池田則宏氏